

令和2年度科学の甲子園ジュニア大分県大会 結果

目的

- ・未知の分野に挑戦する探究心や創造性の育成
- ・互いの良さを生かして協働する力の育成
- ・将来の大分を支える人材育成

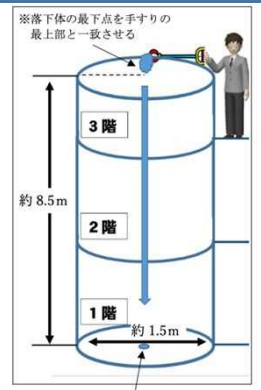
期日 場所

令和2年10月24日 (土)
9:00~12:20
大分県教育センター

内容

実技競技「ピンポイント着地を狙え！」

- ・12月に帰還する「はやぶさ2」のミッションをなぞらえたストーリー
- ・はがきサイズ用紙5枚でターゲットマーカーと探査機を製作し、階段3階から投下
- ・ターゲットマーカーは短時間に着地、探査機はゆっくりと着地する性能が求められる。
- ・2つの落下体の「中心からの距離」と「落下時間の差」を競う。
- ・1チームの人数は1、2年生で構成した6名。

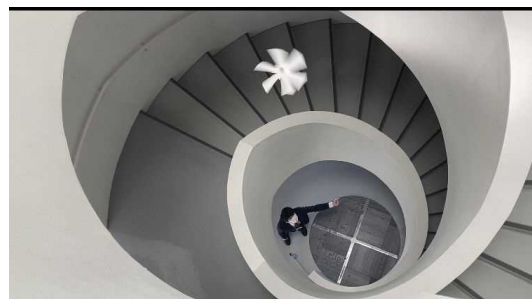


講演「知っているようで、知らない宇宙と宇宙開発」

〈講師〉株式会社minsora 代表取締役 高山 久信 氏

参加

★出場チーム(7校10チーム 60名参加)
大分市立城東中、大分市立大東中、別府市立北部中
別府市立山の手、臼杵市立野津中A・B、
大分県立豊府中A・B、大分大学教育学部附属中学校A・B



結果

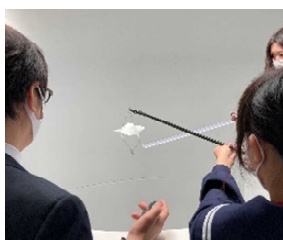
1位(最優秀賞) 大分大学教育学部附属中学校 Aチーム
2位(優秀賞) 大分県立大分豊府中学校 Aチーム
3位(優良賞) 大分大学教育学部附属中学校 Bチーム

生徒感想

・「どうすればより良くできるか」を考えるだけでなく、「誰がどこを作るか」ということも考えて、科学だけでなく友達と協力する力をつけられたと思います。失敗したときに「どこが悪かったのか」と考え、改善してより良くなり、本番で成功するか不安な時がとても楽しく、「仲間とともっと科学について学んでいきたい」と思いました。

・大分がこんなに宇宙に近づいていることを知らなかったのが驚きました。地球はすごく広いのに、宇宙はもっともっと広いと思うと未来が楽しみです。大分が宇宙利用の先駆けになると思うと誇らしい気持ちになりました。

・答えのないものに対して自分たちの知識を使って何かを作ることがすごく楽しいなと思えました。



・チームのみんなと協力しながら何かに取り組むことがとても楽しいとあらためて感じることでできた機会でした。今後はもっと自分達の身近にある問題から遠くにある問題も深く考えたり、知りたいと思えました。

・私達1年生でもチームにこんなに貢献できるんだとわかりました。1年がつくった「ポイントマーカー」は思ったより速く正確だと言ってもらえ、こんなにも嬉しいことを知りました。科学のことを知って楽しいと思ったり、もっと知りたいと思えました。



1位の附属中学校 Aチーム